

消費税減税は多数派 岸田増税政権を追い払おう!!



暮らしを守る政治を、大軍拡・大増税NO!!

国民の切実な声聞かぬ岸田政権

「物価高騰から国民の生活をどう守るか」が臨時国会の最大のテーマでした。行き詰まった政治を転換する抜本策を示しても岸田首相は真摯に受け止めず、まともに答弁しませんでした。国民の声にこたえず危機打開の意思も力もない政権を一刻も早く終わらせ新しい政治を実現することが求められます。

大軍拡、大増税の岸田自公政権の支持率が最低崖っぷちになっています。所得税減税を打ち出しても1年、財界好みの減税で労働者の賃金は上がりません。暮らしを守る政治へ転換を。

5%減税でインボイスも必要なくなり景気回復も

消費税をなくす東京の会第34回総会

暮らしの破壊と戦争準備をすすめる岸田自公政権と維新・国民の党の悪政連合と対決し、平和と暮らしを守る政治の実現を。アメリカと財界の言いなり政治で岸田内閣の政治の行きづまりは深刻で、国民の怒りが渦巻いています。

「草の根」会の活発な活動を学び合い、新たな「会」一斉・発足を果たし、①定例の宣伝・署名作戦、②役員会、③パンフ、会報などの学習、④ニュースの発行で活動の交流などの活動を旺盛に展開し、来るべき総選挙で政治を変えようと訴えられました。



市民と野党の共闘で旺盛な対話で悪政を変え、政治を現実化しよう。

松田税理士荒川のインボイス学習会で「NO消費税」の読者が5人増える。インボイスは消費税増税がねらいで反対してゆこう。

消費税減税には背を向け、大企業支援が中心の経済対策。あらゆるマスキングの世論調査で岸田内閣の支持率が過半数最低になっています。支持率アップをめざして内閣改造しても下がり続けています。経済対策も物価高騰対策も有効担っていません。物価高に最も有効な消費税減税には背を向け、大企業支援が中心の内容が不評を勝っています。実質的に増税となるインボイス制度の導入で保守層からも総スカン、国民の批判と運動に追い込まれています。内閣支持率の下落が続くもとで岸田政権はさらに失点を重ねています。一方でアメリカの暮らしを守る市政は皆無です。

年末活動募金の募金の訴え。会費のない会、購読料と募金でささえられています。「NO消費税」をご購読頂き、憲法違反の消費税をなくす運動にご尽力されておられることに敬意を表し心から感謝申し上げます。岸田自公政権のくたつた大軍拡、大増税の政治で国民の暮らしは物価高騰の苦しみにあえいでいます。政治を根本から変えて「暮らしと平和を守ろう」の闘いの波は大きく盛り上がり、岸田政権を追い込んでいます。どんな手立てを尽くしても支持率は下がるばかり、自民・公明、維新、国民の党のアメリカと財界べったり悪政推進連合を打ち破り、国民が主人公の政治を実現するために頑張りましょう。

2023年12月 消費税をなくす東京の会

自民若手議員から減税の大合唱？

低迷する内閣支持率アップのため、解散総選挙にうみ

10月6日付け東京新聞に「自民なぜ突然の減税の大合唱」と特集記事が掲載された。

自民党が時ならぬ「減税」の合唱が起っている。若手議員らが「消費増5%に」と訴えれば、「税収増分を国民に還元」（茂木幹事長）、「所得税の減税も」（世耕参院幹事長）といった調子。にわかには信じがたい話だが、これは低迷する内閣支持率アップのためか、解散総選挙をにらんだ「アメ」なのか本気度と実現可能性を探ってみた。「減税であれば、全ての国民



減税? 自民が突然の大合唱 東京新聞10月6日

にその恩恵が行きわたる。そういった意味で消費税はみなさんが日々恩恵を感じられる税目だと思ふのでそうしたことを考え

て頂けるならありがたい。岸田政権が検討する新たな経済対策をめぐり、自民党若手議員らでつくる「責任ある積極的財政を推進する議員連」は、5

日消費税の時限的な5%への引き下げや所得税の減税などを求める提言をまとめて、世耕参院幹事長と萩生田政調会長に提出した。

「内閣支持率これ以上下落を防ぎたい思惑や減税を主張する野党が抵抗しづらいとの意図が透けて見える、党首選や総選挙をにらんだ動きでもある」と泉宏氏、我々の増税反対の運動が影響を与えているのだ。



消費税減税し、賃金上げて、国民を守れ!

六郷の会宣伝

10月8日(日) 雑色駅前宣伝、19名で行いました。チラシ200枚、署名10人集まりました。

「こんなことで」よいのではありませんか!、宣伝を準備している段階から、「そうだ、頑張れよ」と声援を送ってくれる方や、じーっとときいている方もいました。インボ

イス制度が10月から始まりましたが反対するネット署名が54万人を超え、実施された今でも、廃止されるまで頑張ると署名を広げています。あきらめず頑張りますよ。

「なくす会」も参加して上野駅で大宣伝

10月6日大型宣伝カーが上野広小路口に横づけ、共産党都委員会が「インボイスは中止、消費税5%」の宣伝を行いました。坂井和歌子比例候補と曾根はじめ都議とともに、消費税なくす会の常任世話人での松田周平税理士、東京の会の慶野靖幸常任世話人が弁士に立ちました。

「インボイス制度で零細な業者やフリーランスの方は消費税の納税が強要され、経営が続けられなくなる」などの訴えに、多くの人の足が止まり、声援が寄せられました。

消費税は社会保障の為にず

いよいよ今年も最後の月をむかえた。一二月で思い出すのが、今を去ること三五前の「消費税法案」が強行採決された瞬間である。

いま、手元に資料がないので記憶の範囲であるが、東京では地域だけでなく、職場でも学園

消費税が強行実施された一九

デモで院内の闘いに呼応して奮闘した。これも今では考えられないことだが、全国に展開していたスーパーの代表が反対論の先頭に立っていた。

消費税(付加価値税)をなくす運動を世界的に

元東京の会事務局長・川上 允

八九年の参議院選挙では、自民党が歴史的敗北を喫し、一二月の国会では、参議院で「消費税廃止法」が可決された。しかし、残念ながら衆議院では野党が多数でなかったため、実現しなかつた。

でも大小さまざまななくす会が結成された。

党が歴史的敗北を喫し、一二月の国会では、参議院で「消費税廃止法」が可決された。しかし、残念ながら衆議院では野党が多数でなかったため、実現しなかつた。

一つ一つの税を巡って、これだけ長期に粘り強く闘っている市民組織は、世界的にも稀有な存在である。ここに誇りと確信をもって、さらに運動をつづけたいと

この「社会保障のため」が実は一番の曲者で、この耳障りのよい口実をいかに突破するかが「なくす会」としても大きなテーマである。

最近、経営が赤字で、毎日のように税務署から消費税の納税を督促されているという中小企業の社長さんからこんな話を聞かされた。「法人税は、会社が赤字なら納めなくてもいいが、消費税はまったなし。それも滞納すればサラ金並みの延滞料がかかる」「消費税が全部社会保障に使われるのなら我慢するが、

見出しは「やり方」を発明しよう。」(二〇一四年四月二三日「日経」)というものである。内容は「モヤシのような安い食材を使うなどの工夫をすれば、増税もまた楽しからずやだ」というのである。このトヨタこそ、輸出戻し税で地元の税務署を赤字に陥れている張本人である。消費税は「社会保障のため」ではなく、一部の企業と資産家を優遇する税であること

を声を大にしていいたい。

CHIIHIRO CALENDAR

いわさきちひろカレンダー

世界中のこども みんなに 平和としあわせを

このいわさきちひろのねがいをこめて、いわさきちひろカレンダーは、手から手へ、心から心へ、日本中にひろがっています。



いわさきちひろ作品普及会



上野駅広小路口での宣伝